

〒037-0305

青森県北津軽郡中泊町中里亀山540-8

TEL : 0173-57-2001

FAX : 0173-57-4929

E-mail : t_gijyutu_c@maff.go.jp

平成30年度 新規技術開発課題の取り組み

平成30年度も事業が本格的に動き出し、当センターでも新規技術開発課題が仙台署（特定母樹挿し木コンテナ苗による低コスト造林試験）及び盛岡署（2条植え3条植えによる下刈省力化と多様な森づくり）で本格的な試験地設定作業が始まりました。

特定母樹の挿し木コンテナ苗を活用し、試験区を毎年区・隔年区・無下刈区の3区分を設置し下刈省力効果の検証を行います。

2条3条植えでは低密度植栽で2条3条植えを実施することで下刈実行面積の削減するとともに下刈を実施しない区域については、ぼう芽力を活用し針広混交林を目指すこととしています。

作業の進捗状況ですが、特定母樹については、挿し木苗は通常造林用としては東北地方においては一般化しておりません。そのため挿し木苗の植付作業時は、取扱方法を現場にて逡巡し、植付時に苦勞する場面も



特定母樹



2条3条植え



ありましたが5月末には作業を終了しております。

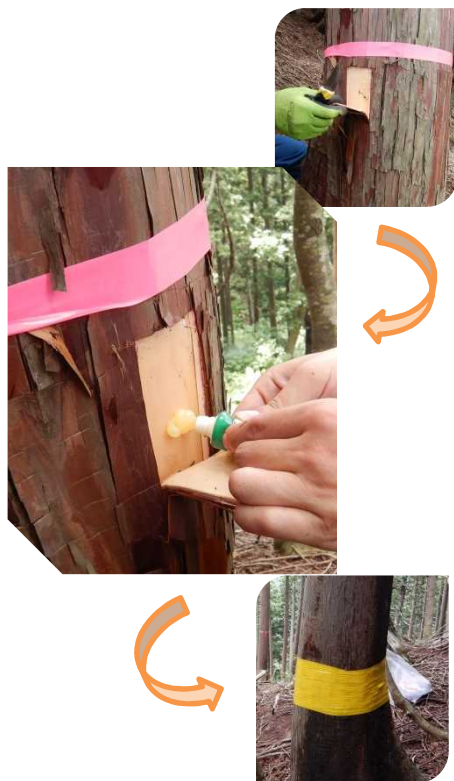
また、2条植え3条植えでは従来の方形植えでの作業に慣れていること、2条植え3条植えの事例が東北では少なく作業の進め方自体が手探りで戸惑う場面が多く時間が掛かりました。

課題としては、東北地方では馴染みの薄い挿し木・2条植え等の植栽方法の知見を増やす取り組みが必要と感じたところです。

新規技術開発課題の2課題ともに春の活着調査を終了し、今後は定期的な定点撮影で生育状況を見守りながら、秋に成長調査を行う予定としています。

森林技術普及専門官（盛岡署駐在）堀川

ヒバのジベレリン処理試験について



国有林では、前生稚樹等天然力を最大限に活用し、人工林の更新にあたり、ヒバ林に復元する取組を進めています。天然生稚樹の発生が少ない箇所では、補助的に人工植栽する計画ですが、前生ヒバ立木に対しジベレリン処理を行い着果、稚樹発生の促進、コントロールが可能になれば、低コストでヒバ林に復元できる可能性があります。

これらのことから当センターでは平成28年度から自主課題として「ジベレリン処理による効率的なヒバ下種更新技術の開発」に取り組んでおり、ヒバのジベレリン試験を行っています。今年度は平成30年7月20日（金）に三八上北森林管理署管内の野辺地町の国有林において、ヒバ立木の幹へのジベレリンペースト処理を実施しました。

ヒバにジベレリンを処理することで着果促進が期待されます。着果結実、稚樹発生等、ヒバ天然林に対するジベレリン処理の有効性について検証するために、今後も引き続き調査していく予定です。

森林技術専門官 増田

森をさんぽ

増田です！



森林技術専門官
増田 悠介

今年も暑い夏の季節となりました。昔、子供の頃、夏の夜に水田へ暗闇の中にきらりと光るホタルをよく観に行きました。皆さんはホタルと聞くとどんなイメージでしょうか。綺麗な水辺にいる、あるいは発光する、とあげるでしょうか。

日本の国内には約40種程度のホタルが知られていますが、実は水辺にいるホタル、発光するホタルはともに少数派で、多くのホタルは発光しなかったり、陸生のホタルなのです。ホタルの中で有名なのが、ゲンジボタル、ヘイケボタルですが、どちらも水辺で発光するホタルです。一方、森林の中で発光するホタルもいます。有名なのがヒメボタルです。

岩手県二戸市の折爪岳は、東北有数のヒメボタル群生地です。夏の夜、頂上周辺の林内に多くのヒメボタルが乱舞し、その光景はとても神秘的です。水辺でのゲンジボタルやヘイケボタルとはまた違い、山のなかで光の競演を見にヒメボタルに会いに行ってみてはいかがでしょうか。



編集後記

西日本で発生した豪雨災害では過去最大の豪雨災害となり、亡くなられた方や被災された方々には心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

また、生命に係る危険レベルの高温が続き「熱中症」での死者も過去最高となっています。私たちの職場も山での業務があり、特に水分補給や休憩を取りながら行動しなくてはなりません。暑～い日が続きますが、しっかり食べてぐっすり寝て**暑い夏**を乗り切りましょう！